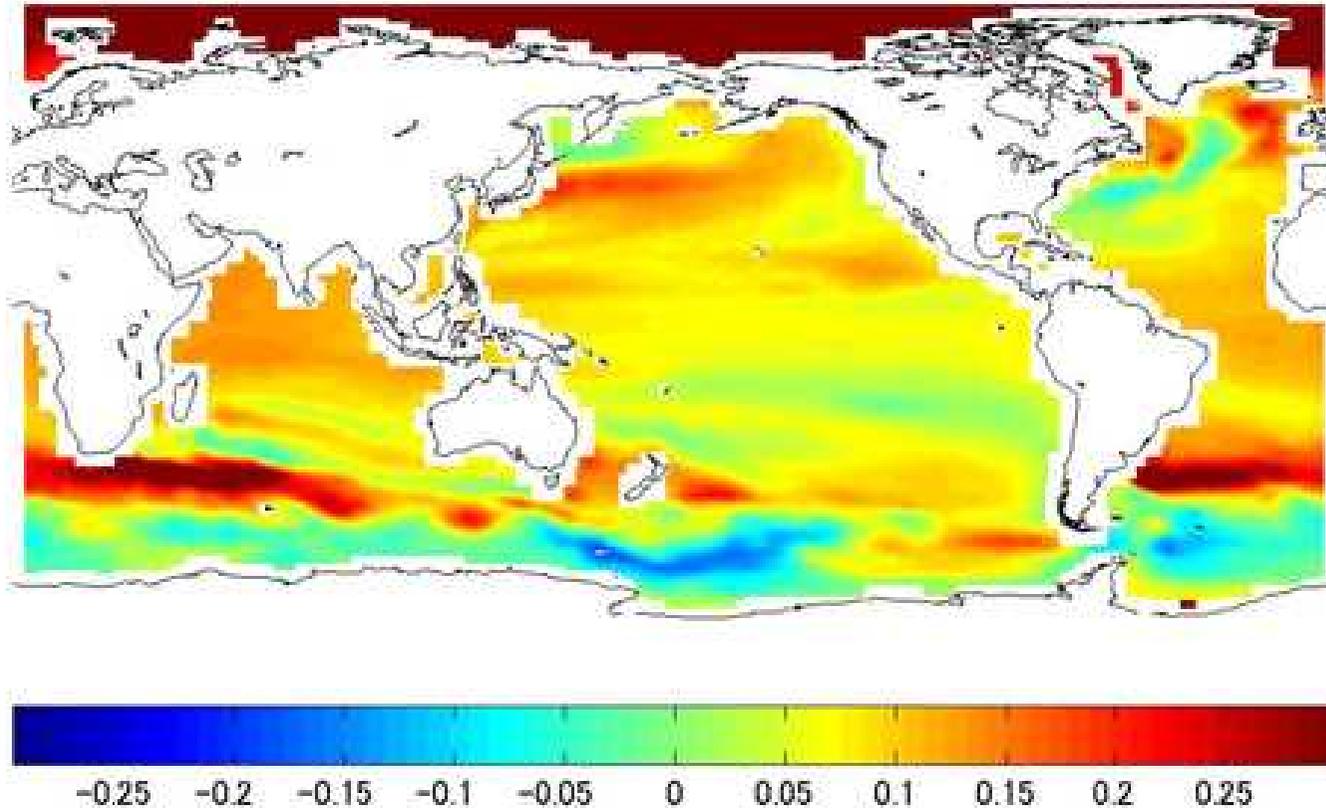


SI-CAT (気候変動適応技術社会実装プログラム)の 取り組みについて

＜平成28年度鳥取県沿岸土砂管理連絡調整会議資料＞



※現在から今世紀末頃の海面上昇量の予測結果:CMIP3に基づく結果 SRES-A1Bシナリオ(単位m)
出典:京都大学防災研究所 沿岸災害研究分野 HP抜粋

平成28年11月 22日(火)
鳥 取 県

SI-CAT（気候変動適応技術社会実装プログラム）とは

背景

今後、数十年間の**地球温暖化による影響**によって、台風・集中豪雨をはじめとした自然災害リスクの増大は避けられない状況であり、気候変動に対する適応策の推進・検討が必要となっている

目的

SI-CATは、全国自治体における気候変動適応策の検討・策定に汎用的に活かされるような、信頼度が高い気候変動予測技術や気候変動影響に対する、適応策の効果の評価を可能とする技術を開発するとともに、シーズ・ニーズ（開発する技術と需要）が一体となった、社会実装の実現を図ることを目的として、文部科学省が公募したプロジェクトである

役割

技術開発機関：海洋研究開発機構（JAMSTEC）、国立環境研究所（NIES）

共同参画技術提供機関：京都大学

社会実装機関：筑波大学、**鳥取大学** **モデル自治体**：茨城県、**鳥取県**

取り組み概要

技術開発機関

近未来をターゲット
とした気候変動予測

海洋研究開発機構(JAMSTEC)
国立環境研究所(NIES)

共同参画技術 提供機関

精緻な影響評価

京都大学

社会実装機関

適応策の検証
地方自治体の支援

筑波大学
鳥取大学

- 適応策の検討
- 土砂管理計画の検討
(土砂管理ガイドラインの改定等を想定)
- 将来的に発生しうるの課題の抽出等

本プロジェクト実施期間
平成27年～31年 (5箇年)

モデル自治体

適応策の検討

茨城県・鳥取県

海岸



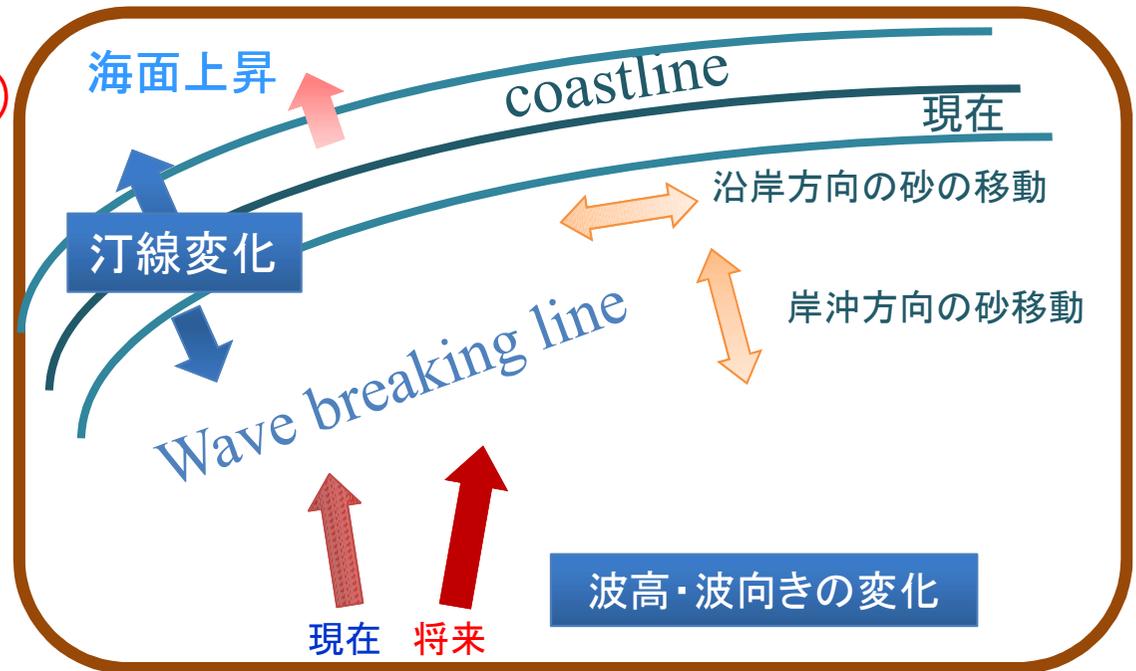
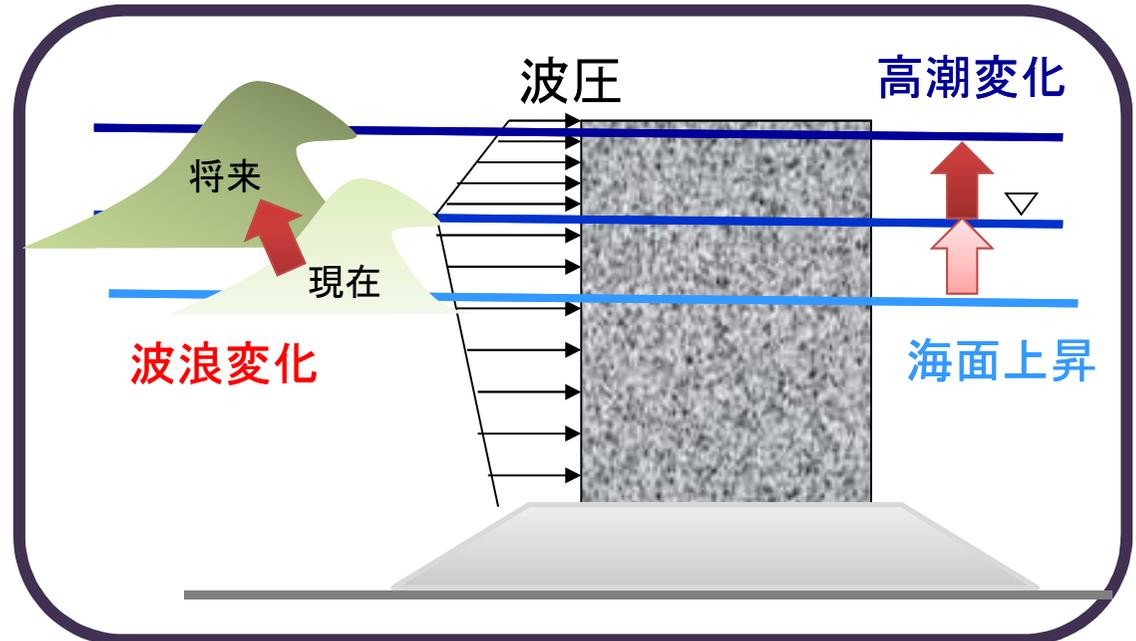
波及効果

観測される現象

- 静的な海象の長期変化
 - 海面上昇
- 動的な海象の長期変化
 - 波浪(波高・周期)
 - 高潮

工学的応用

- 防波堤・越波
- 港湾静穏度
- 常時波浪
 - 海浜変形



※出典 SI-CAT モデル自治体茨城・鳥取打合資料
(京都大学・防災研究所森 信人、金沢大学・二宮順一)